

トヨタグループ

(一)

先日、「やまばと未来計画」の「研修グループ」は、「昔のことを語る会」を企画し、三人のシニアワーカーを招きました。中村章子さん(元看護師で定年後は生活支援員)、広木きくさん(定年後も栄養士として勤務)、そして、私です。

牧ノ原やまばと学園は今年で創立五十六年になりますが、中村さんはそれ以前から榛原教会(この教会から学園が生まれた)に出入りし、マク先生(学園の創設者たちに大きな影響を与えたカナダ人宣教師メイ・マクラランの呼名)からも教わったことが分かります。広木さんは、お茶やお花の先生だった海瀬さん(榛原教会員)を通して学園につながった由。

発行
 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
 〒421-0412 静岡県牧之原市
 坂部 2151 番地 2
 TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
 E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
<http://www.yamabatogakuen.jp/>

機関誌代は無料です。



三人に共通しているのは、最初から福祉の道を志したわけではなく、人々との出会いを通して、この仕事に導かれたという点でした。

私は一九七七年、長沢巖と結婚して初めて福祉の仕事をするようになったのですが、学園では働かず、自宅で障害を持つ人数名と共同生活をする一方、昼間は無認可の小規模授産所で働き始めました。授産所の報酬はなく、二年目から月三万円頂くようになりました。

当時はどこの授産所も同じような状況で貧しかったのですが、職員同士は仲がよく、何かにつけ、島田、大井川、相良の小規模作業所関係者たち(女性ばかり)が集い、にぎやかにおしゃべりし、情報交換し切磋琢磨していました。資金は何もないのに、皆、なぜかファイトに溢れ、希望と喜びを抱いて働いていたのです。

なぜ、あんなに元気だったのか、その理由の一つは、(行政など)周囲から指示されたり命じられたりすること無く、自分たちが自由に自らの考えで、ご利用者と施設のため働けたこと、また、事務的・管理的仕事をあまりする必要がなかったからだろうと思います。

かつてと比べて現在は、事務的な仕事が増。個別ケアプランの作成、モニタリング(定期的・継続的観察、記録)、ケース会議、支援記録、提供したサービスの請求業務、区分認定、入所判定会、自立支援協議会、地域連携会議等々、これに関わる職員は、現場で働くよりもむしろ事務室でパソコンを叩くほうが多くなっています。

福祉施策の変化等により、提出書類や会合が増えたのはやむを得ない面もありますが、「業務」に縛られ、「人」が見えなくなることはないでしょうか? 目前の困っている人よりも、「会議というスケジュール(業務)」を優先してしまうかどうか? との不安はあります。

ご利用者に笑顔をもたらすのは、記録(文字)や会合(理論)ではなく、人と人とのふれあい、一歩したり、挨拶したり、励ましたり、一緒に歌ったり踊ったり食べたり、一であることに変わりはないので、できるだけそういう交わりの中に入り、「目の前の人を幸せにする知恵」を習得していつてほしいと願うことです。

(二)

三人の雑談の中で出た話題としては、「当時、多くの職員が休日にご利用者を自宅に連れて行き、ともに過ごした」ことや、「障害児たちは、自由に動き回り、職員を困らせることもしばしばだったが、それが当たり前と受けとめられていた」といったことでした。

仕事から解放されヤレヤレと寛

げる時間に、ご利用者を改めて家に招くというのは、すごい対応だと思えます。子どもたちを自分の身内のように可愛く思い、喜ばせたい気持ちがあったからでしょう。また、そうすることができると環境やゆとりがあったためかもしれません。勿論、当時の仕事の厳しさは今以上だったでしょうが、事務的・管理的作業に追われる必要はなく、ひたすらご利用者に向き合っていたらよかったです。

当時の職員たちは「無駄な時間」の中に、利用者の笑顔につながる宝が多く秘められていることを知っていたのでしよう。一方、効率を求めがちな私たちは、こんなのにびりしてはいられないと考え、無駄な時間を削り、その途端に、そこに秘められた宝を次々に失っているのかもしれない。

障碍を持つ人たちは言葉を発することはできませんが、もし「今の施設と、昔の施設と、どっちがいい？」と質問したら、どんな答えが返ってくるでしょうか？……

ご利用者の自由を尊重し、その願いに耳を傾け、それに応える支

援ができますよう願っています。

(三)

すでにご承知の方もいるかもしれませんが、私はよく、こんな「トマトのエピソード」を語ります。

「やまばと学園」創設期の頃、いつも自宅の前を散歩していく職員とご利用者がいました。その日も挨拶を交わし、婦人は熟したトマトを差し出し、「これ、どうぞ」とご利用者へ渡しました。ところが彼はトマトを投げ捨ててしまったのです。それを見た職員はトマトを拾い上げ、エプロンで拭いて、自分の口で食べた後、「おいしいよ」と言って利用者に勧め、婦人にお礼を言いつつ、「ご利用者にもお礼を言わせ」立ち去ったそうです。

ご婦人は、その行為にとても心動かされ、以来、当法人の支援者になってくださったのでした。息子さんにもしばしばその話をしたので、息子さんも「やまばと学園」を応援してくださるようになります。彼はその後、民生委員や里山の会会長を歴任し、今では当法人の評議員を務めてくださっています。当法人だけでなく、牧之原市

社会福祉協議会の会長等、地域福祉のためにも良い働きをしておられます。

さてこの「トマトのエピソード」には、今の福祉が効率や専門性の名の下に失いがちな「人間としての本質」「真の専門性」が全て入っているのではないのでしょうか。投げ捨てたトマトをとっさに拾い上げた行動は、マニュアルには書けないけれども、しかし。「最高の支援」だろうと思います。

トマトを拭いて自ら食べることで、ご婦人の好意を無駄にせず、その方に感謝を表しました。

ご利用者を叱責する代わりに、食べる姿を見せて「美味しいよ」と、トマトの味を共有しました。

土に落ちたトマトを拭いて笑って食べる、その姿を通して、「障碍者とともに歩む」、「地域の人とともに歩む」、飾らない、明確な気持ちを反映しました。

彼女は、牧ノ原やまばと学園の「ともに生きる」を、力まず、かつ雄弁に示してくれたと思います。

「専門性」とは、単に知識を持っていることではなく、その知識

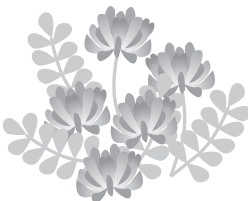
を「以前の人の自由のため、喜びのため、どう使うか」考え抜く力だ、という言葉がありました。そのような力を得たいものです。

実は、この職員の名前を私は知らず、半世紀過ぎた今も不明のままですが、私たちは、このような良い先輩がいたことを嬉しく思います。冒頭で紹介した中村さんや広木さんもそのような良い先輩のお一人であり、労を惜しまず、ご利用者と施設のために尽くして下さいました。改めて感謝致します。

他にも同様の、「ともに生きる」を生きた良い先輩たちが多くいることを誇りに思うことです。

これからも予期せぬ出来事が起きるでしょうが、神さまのお守りのもと、何よりも、目の前の人々に、安心や喜びをもたらすことができますよう願っています。

〈理事長〉長沢道子



施設訪問感想

恵泉女学園中・高生

東京にある「恵泉女学園中学
高等学校」の皆さんが、二〇二五
年七月二十六日から二十八日まで、
当法人の施設を訪問してくださいま
した。いただいた感想文はどれも本
音で書かれていました。今回は、そ
のうち数例を紹介いたします。なお、
恵泉女学園は中高一貫教育の学
校なので、四年生は高校一年生
に当たります。

2年生

私はこのやまばと学園を訪問し、
たくさんのことを学び、感じるこ
とができました。例えばコミュニケー
ションは「口」で話すことだと思っ
ていました。しかし、この訪問を通
して「口」だけでなく、「目、表情」
など全身を使って話すこともできる
のだと学ぶことができました。他に
も、車いすの大変さ、高齢者施設の
現状などを学ばせていただきました。
このような貴重な経験はなかなか
いと思いますし、これからの社会で
は必要不可欠な知識だと思うので、
このことを心にとめてこれからの将

来のことや、日常生活に活かしてい
ければと思います。

3年生

初めてやまばと学園に訪問させて
いただいた、今まで参加してこな
かったことを後悔しました。初日に
高齢者の施設を訪問させていただ
いたときにはどのように接したら良い
のかわからず、あたふたしてしま
いましたが、徐々にコツをつかみ、ふ
れあうことができました。車いすの
方には、しゃがんで目を合わせたり、
聞きとりやすいように声をはっきり
と出してゆっくりと話したりと意識
することがたくさんありました。が、
コミュニケーションをとることがで
きたときは嬉しかったです。二日目
と三日目は障害者の暮らし施設と働
く施設に訪問させていただきまし
た。高齢者と接したときはほとんど反応
が返ってきたのですが、障害者と接
したときは反応が返ってこないこと
も多く、どうしたらコミュニケーション
ションがとれるのか悩むこともあり
ました。しかし、職員さんから「反

応はなくても言葉は聞こえているか
ら安心して話しかけてください」と
言っていたいたおかげであきらめ
ることなく話しかけられました。日
常ではあまりふれあわない方たちと
ふれあう貴重な体験ができ、とても
充実した三日間でした。来年もまた
参加したいです。

3年生

私は今回、やまばと学園訪問に参
加して学んだことがあります。1つ
目は行動することの大切さです。私
は1年生からこのやまばと学園訪問
に参加させていただきましたが、1、
2年生の頃は緊張してあまり話しか
けることがあまりできませんでした。
しかし、今回勇気をもつて話しか
けると、利用者はとてもよるこんで
私の話を聞いてくださったり、答え
てくださりました。この体験を通し
て勇気をだして行動することで自分
も相手もお互いに嬉しい気持ちにな
るとわかりました。2つ目は障害者
の方々は好きなものと同じだったり、
得意なことがあったりなどと私たち
とは全く変わりない方々だと改めて
感じたことです。これらのことを通
して、私はより沢山の人が障害につ
いて興味をもち、無意識にできてし

まっている障害者の壁をなくしてい
きたいと思いました。

4年生

初めてやまばと学園の訪問に参加
しました。ご利用者の方とお話する
のに、最初はとても緊張しましたが、
時間がたつにつれて、どんどん打ち
解けることができました。今回のや
まばと学園では、老人ホームと知的
障がい者のケアセンターなど合計3
つの施設をまわりました。3つの施
設にうかがってみて、共通して感じ
たのは、言葉で会話ができなくとも、
表情やしぐさなどを使って会話がで
きるんだということです。ご利用者
の方の言っていることが少し聞きと
れなくても、笑顔でもう一度聞き返
したり、笑いかけたりしたら、相手
も笑い返してくれました。その時に、
しっかりと話を聞いた会話のキャッチボ
ールができなくても、お互いに伝えた
いという思いが通じ合ったような気
がして、とても嬉しかったです。こ
の学園の理念である「ともに生きる」
がやまばと学園の従業員のみなさん
のあたたかさから伝わってきました。
この訪問での経験を進路にも活か
していきたいです。

未来検討委員会 人材グループの活動報告

ケアセンター野ばら 伊藤美和

未来検討委員会の「人材グループ」は、福祉人材の確保・育成・定着のため努力していますが、今年度は主に「人材確保」に取り組みました。少子高齢化もあり、どの企業や法人も確保に熱心で、私たちも真剣に取り組まねばと、まずは、リクルート用パンフレットを一新することになりました。

パンフレットの表紙のタイトルは「ともに生きるを、わたしのしごと」と決定しました。皆、このタイトルが気に入っています。

次に、求職者がどんな情報を求めているのか知るために、実習生の皆さんに話を伺い、また、seven four design worksの伊東様にも最近のトレンドなどを教えて頂きました。

パンフレットに以前よく使われていた「アットホームな職場」といった表現は、今ではあまりその意味が伝わらないとのこと。数字で表せるものは数字で示す、自分が働いた時のイメージを描けると良い、また、パンフレットは、ホームページとリ



ンクさせるといったことを採り入れました。

今の求職者が求める情報を提供し、魅力ある内容になるよう心がけましたが、情報の基である実際の職場をよくすることこそ大事であると改めて気づかされました。

これから就職する人だけでなく、今働いている仲間も、安心して働ける場にする、定着・育成を考えることも人材グループの大きな軸だと改めて痛感しました。

パンフレット制作を通して、人材グループ皆で協力できたのは嬉しいことでした。無事完成し、協力していただいた方々にメンバー一同感謝しています。

(施設長)

DX学校を終えて

垂穂寮 山内智恵子

福祉の現場におけるDXとは、「デジタル技術を味方につけて、ご利用者もスタッフも、みんながもつ笑顔になれる環境を作ること」だとDXの学びから感じました。

入所施設である垂穂寮では、日々の情報共有が欠かせません。現在は記録こそタブレットで行っていますが、その他のやり取りは紙やメールが中心で、情報をまとめたり確認したりする作業がスタッフの大きな負担になっています。また、手厚い個別ケアが求められる中で、支援員の心身にかかる負担をいかに軽くするかが大きな課題です。

そこで注目したいのがDXの力です。例えばセンサーで見守りをサポートしたり、AIが会議録の作成を助けてくれたり。アンケートなどもデジタルの仕組みを使えば、手作業での集計は不要になります。情報共有がスムーズになれば、ご利用者の安全にも繋がりますし、何よりスタッフの「時間」と「心」にゆとりが生まれます。そのゆとりこそが、より丁寧で優しい支援を届けるため

に大切だと感じています。

「デジタル」と聞くと、どこか冷たい印象を持つ方もいるかもしれませんが、「人」です。最新技術を「温かみのある支援」を支えるパートナーとして活用し、一人ひとりに寄り添う時間を増やしていく。そんな福祉の未来を形にすることが、私たちの目指すDXの姿です。

実はこの文章も、AIの力を借りて素案を作りました。その分、早くそして自分の気持ちを整理しながらまとめることができ、事務作業への焦りも軽くなったと感じています。技術を賢く味方につけて、もっと温かな現場をみんな支えていきたいです。

(副主任事務員)



鯛焼き屋さんの来寮

垂穂寮 大石千香子

一月十五日、垂穂寮に鯛焼き屋さんが来寮し、垂穂寮だけでなく近隣の事業所のご利用者や職員も楽しい時を過ごしました。

実は、聖ルカホームで鯛焼きの販売をしている事を知り、ぜひ垂穂寮にも来ていただきたいとお願いをしたのでした。

午後二時、香ばしく甘い匂いに誘われるように、屋外の屋台の前へ、ご利用者が集まってきました。普段はのんびりと過ごしているご利用者Aさんも、鯛焼き屋さんだと分かるのと、鯛焼きをめぐって小走りでかけてきました。味は、あんこカスタードクリームの種類です。味を選んで焼きたての鯛焼きを受け取り、寒くても嬉しそうに大きな口を開けてほおばる姿がみられ、幸せそうな様子に嬉しく思いました。

そんな姿をみると、私が小学生の頃、冬の日鯛焼き屋さんを目指して自転車を走らせ、焼きあがる

のをワクワクしながら待っていた記憶が蘇り、懐かしく感じました。

ご利用者の中にも、「鯛焼き」を昔懐かしく思い出した方もおられたかもしれません。

今回の催しが美味しさだけでなく、季節や思い出、楽しさを感じられるひとときとなれたのなら嬉しいです。

垂穂寮には、食べることが好きなご利用者が多くいらっしゃいますが、高齢や疾患により、嚥下障害が心配される方が増えてきています。安全面を意識した食事の提供を心がけるとともに、食べる楽しさを奪うことのないよう、今回の鯛焼き屋さんのように、少し特別感のあるワクワクした楽しみを、今後も提供していきたいと思えます。

(栄養士)



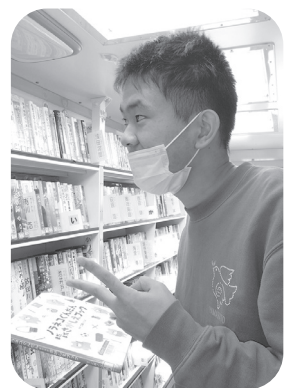
移動図書館『ひまわり号』

ワークセンターやまばと 西本康子

私たちワークセンターやまばとでは、牧之原市の移動図書館『ひまわり号』を利用してあります。図書館利用者カードを持参し、月一回最寄りの巡回コース久翁寺で二〇冊の本を利用者さんと一緒に選び借りにきます。ひまわり号には約三〇〇冊の本が搭載されているそうです。返却は約一カ月後になり、また新しい本二〇冊を借りるといふパターンです。

借りてきた本は、本棚に並べられ昼休みに各自好きな本を選んでいきます。毎日車の本を熱心に見ている方。昔の車から今の車まで色々な車種を知っていて感心します。きっとお父さんが車好きな方なのかなと想像してしまいます。

スイーツが大好きな方は、本を見ながら料理名や材料の名前まで大きな声で言っています。家でお母さんの料理作りを見たり、一緒に作ったりにしているのかな・・・。



食堂では女性陣たちが旅行のガイドブックを開いて「ここ、行った事あるよ」とか「当地グルメを見て「美味しそう」「食べたらい」と楽しそうに話しています。

他にも本を片手に、本の活字をメモ帳に一生懸命写して「上手に書けたよ」と職員に見せてくれる方もいます。最近ではスマホに頼りがちで、字を書くこと、特に読めるのに書けないといった事も多く聞きます。そんな中で本を読んだり、見たりする事は、コミュニケーション能力、想像力、表現力が身につく、これからの人生をより一層豊かにしてくれると思います。

そうそう、昼休み終了後、本棚の本が二〇冊あるかを毎日確認してくれる方もいます。各々の本の楽しみ方、学びは違い、その時間も昼休みのほんの一時ですが、とても充実した時間を過ごしています。これからも、もっともっと多くの方が本に親しみ、笑顔が溢れる事業所になったら嬉しいです。

(事務員)

歩みのあと

(1月1日〜2月28日)

●全体的なこと

●2/20みどり経営労務研修

●(法人)1/12長澤理事長、牧之原

市市制20周年記念会へ出席。1

14DX研修最終。1/21長澤

理事長、坂部地区企業懇談会へ

出席。1/29長澤理事長と事務

長、静岡県社会福祉法人経営者

協議会後期セミナーへ参加。2

6長澤理事長、障害者自立支援

ネットワーク全体会へ参加。2/20

長澤理事長、古田町障害者(尼

澤推進委員会)出席。2/26長

澤推進委員会全体会へ出席。2/27

28長澤理事長ほか5名、日キ社事

理事會及び情報交換会へ出席

〔垂穂寮〕1/15たい焼き屋さん

を自分で選び、おやつで頂く。1

23浜松友愛のさとの遠藤先生

による自防症研修と事例検討会

1/23夜、防災BCPに沿った訓

練。2/21しまだふくし保育のお

紹介カフェ出展。(垂穂、コ

スモスみきわ)

〔野ばら〕1/15たい焼き屋さん出

店。できたてのたい焼きを頂く。1

習生を受け入れる。
〔わかば〕2/1吉田港海岸清掃に

参加。2/21保護者会開催。
〔おくれん〕1/1初詣参拝。1/2

おはき作りを楽しむ。2/1吉田

港海岸清掃に参加。2/21保護

者会開催。
〔花もも〕1/23誕生月会、思い思い

のどら焼きを作る。2/27お楽し

み会。すうろくゲームで大盛り上

がり、自分で選んだお弁当とソニ

ャル飲料を頂く。
〔かたくりの花〕1/17新年会に獅

子舞登場で大騒ぎ。1/17成人

を祝う会ではお母様とお祖母様

も参加し皆でお祝い。2/3節分

で年男と年女が福の神になつて豆

まきを楽しんだ。
〔マーガレット〕1/5愛宕神社に初

詣に行く。2/3節分の日に鬼退

治とゲームおやつを楽しむ。
〔カサランカ〕1/19鳥田市権利

擁護虐待防止研修2名参加。2

4事業所全体で市健康つくり

課による感染症講習会。2/16

11名参加。
〔コスモス〕1/6新年大会。利用者

と職員が新年の抱負を発表し、お

寿司、パン、バグ弁当を食べる。1

月、2月、個別外出。サンドア

ートやインシャルチャーム作り、ポウリ

ング等を楽しむ。
〔なのはな〕1/5横井町クレーン作

戦。1/12調理実習。2/18、19

〔希望の家〕1/13福祉事業所セ

ミナー参加。事業所の紹介を企業へ

行った。1/16交通安全教室、講話

と歩行訓練。2/13園磨き指導

〔さくら〕1月、2月、昼休みにバト

ミントンやサッカー等、仲間を声

掛け合、楽しむ様子が見られる。

2/27ミニミニ運動会、メイリン

ボール玉入れ、バグ、食い競争等、紅

白に別れ競い合う。
〔レタスクラブ〕1/5愛宕神社へ初

詣。1/26外出。1/27お祭り

参加。2/4ボランティアの殿村さ

んじやが芋の種を植え付けてく

れた。2/9ランチつくり(炊込み

飯、豚汁)9人参加。
〔聖ルカホーム〕1/20ソートケア審

査、結果は合格、県内3番目の事業

所となる。2/9インドネシアから

特定技能1カ、2名着任。
〔グレイス〕1/14福笑い、新年を祝

う。1/20福笑い、後ネギト、お

1/16栄笑会。獅子舞

踊りやボランティア様によるアト

クソン等、新年の笑い始めとな

りました。1/19新年会、健康を

祈願した。2/3節分。今年もよ

い年になりますようにと鬼に扮し

た職員がけて「鬼は外!」鬼退

治をイラストレス発散もできました。

2/18食事作り。お好み焼きを

作りました。鉄板でお好み焼きを

上手にひたくり返すことができました。

いた。いつものようにおいしくいた

だきました。
〔さくらん〕年末年始の休業中も相

談があった利用者宅を訪問、実際

休めたのは1/2のみ。正職1名

のため、正職1名

の確保に努めた。

〔シャローム〕1/23ケアプランデー

連携システム研修。2/6榛原総

合病院医師による心不全につい

ての研修。2/13坂部サロンに参

加。2/19牧之原市集団指導。2/

20相良地区民生委員との交流会。

〔オリーフ〕1/27「研修」利用者

も職員も幸せになる施設づくり

というテーマに魅せられて、職員7

名が参加(500名)。幸せになる要

素は「役に立つこと」「必要とさ

れること」「ほめられること」「愛

される(大事にされる)こと」。そ

れは利用者も職員も同じである

こと。そのお話でした。「そなたよ

う」は「はりそうだよな」と改め

て納得した研修でした。2/25地

域包括支援センター部会開催。部

会の委員は医師代表、介護保

険事業者代表、社会福祉協議会

代表、民生児童委員協議会代表、

薬剤師会代表、オリーフの2年目

たたく。1/13手作り昼食、おで

んを作りアツアツを美味しくいた

だ。1/15ひまわり号へ本好き

な方と借りに行く。1/22/24あ

んまき作り。2/23節分豆まき大

会。2/4幸切干し作りごっすり

つまみ食いも。2/12すすずらん

と合同の防災研修で送迎の情報

収集を行う。2/1416坂口谷川

の桜を見ながら歩行訓練。2/13、

14感謝の気持ちを込めて、パレ

ンターにおやつ作り、イチゴのチ

ョコが好評でした。
〔すすずらん〕1/16栄笑会。獅子舞

踊りやボランティア様によるアト

クソン等、新年の笑い始めとな

りました。1/19新年会、健康を

祈願した。2/3節分。今年もよ

い年になりますようにと鬼に扮し

た職員がけて「鬼は外!」鬼退

治をイラストレス発散もできました。

2/18食事作り。お好み焼きを

作りました。鉄板でお好み焼きを

上手にひたくり返すことができました。

いた。いつものようにおいしくいた

だきました。
〔さくらん〕年末年始の休業中も相

談があった利用者宅を訪問、実際

休めたのは1/2のみ。正職1名

のため、正職1名

の確保に努めた。

〔シャローム〕1/23ケアプランデー

連携システム研修。2/6榛原総

合病院医師による心不全につい

ての研修。2/13坂部サロンに参

加。2/19牧之原市集団指導。2/

20相良地区民生委員との交流会。

〔オリーフ〕1/27「研修」利用者

も職員も幸せになる施設づくり

というテーマに魅せられて、職員7

名が参加(500名)。幸せになる要

素は「役に立つこと」「必要とさ

れること」「ほめられること」「愛

される(大事にされる)こと」。そ

れは利用者も職員も同じである

こと。そのお話でした。「そなたよ

う」は「はりそうだよな」と改め

て納得した研修でした。2/25地

域包括支援センター部会開催。部

会の委員は医師代表、介護保

険事業者代表、社会福祉協議会

代表、民生児童委員協議会代表、

薬剤師会代表、オリーフの2年目

たたく。1/13手作り昼食、おで

んを作りアツアツを美味しくいた

だ。1/15ひまわり号へ本好き

な方と借りに行く。1/22/24あ

んまき作り。2/23節分豆まき大

会。2/4幸切干し作りごっすり

つまみ食いも。2/12すすずらん

と合同の防災研修で送迎の情報

収集を行う。2/1416坂口谷川

の桜を見ながら歩行訓練。2/13、

14感謝の気持ちを込めて、パレ

ンターにおやつ作り、イチゴのチ

ョコが好評でした。
〔すすずらん〕1/16栄笑会。獅子舞

踊りやボランティア様によるアト

クソン等、新年の笑い始めとな

りました。1/19新年会、健康を

祈願した。2/3節分。今年もよ

い年になりますようにと鬼に扮し

た職員がけて「鬼は外!」鬼退

治をイラストレス発散もできました。

2/18食事作り。お好み焼きを

作りました。鉄板でお好み焼きを

上手にひたくり返すことができました。

いた。いつものようにおいしくいた

だきました。
〔さくらん〕年末年始の休業中も相

談があった利用者宅を訪問、実際

休めたのは1/2のみ。正職1名

のため、正職1名

の確保に努めた。

〔シャローム〕1/23ケアプランデー

連携システム研修。2/6榛原総

合病院医師による心不全につい

ての研修。2/13坂部サロンに参

加。2/19牧之原市集団指導。2/

20相良地区民生委員との交流会。

〔オリーフ〕1/27「研修」利用者

も職員も幸せになる施設づくり

というテーマに魅せられて、職員7

名が参加(500名)。幸せになる要

素は「役に立つこと」「必要とさ

れること」「ほめられること」「愛

される(大事にされる)こと」。そ

れは利用者も職員も同じである

こと。そのお話でした。「そなたよ

う」は「はりそうだよな」と改め

て納得した研修でした。2/25地

域包括支援センター部会開催。部

会の委員は医師代表、介護保

険事業者代表、社会福祉協議会

代表、民生児童委員協議会代表、

薬剤師会代表、オリーフの2年目

たたく。1/13手作り昼食、おで

んを作りアツアツを美味しくいた

だ。1/15ひまわり号へ本好き

な方と借りに行く。1/22/24あ

んまき作り。2/23節分豆まき大

会。2/4幸切干し作りごっすり

つまみ食いも。2/12すすずらん

と合同の防災研修で送迎の情報

収集を行う。2/1416坂口谷川

の桜を見ながら歩行訓練。2/13、

14感謝の気持ちを込めて、パレ

ンターにおやつ作り、イチゴのチ

ョコが好評でした。
〔すすずらん〕1/16栄笑会。獅子舞

踊りやボランティア様によるアト

クソン等、新年の笑い始めとな

りました。1/19新年会、健康を

祈願した。2/3節分。今年もよ

い年になりますようにと鬼に扮し

た職員がけて「鬼は外!」鬼退

治をイラストレス発散もできました。

2/18食事作り。お好み焼きを

作りました。鉄板でお好み焼きを

上手にひたくり返すことができました。

いた。いつものようにおいしくいた

だきました。
〔さくらん〕年末年始の休業中も相

談があった利用者宅を訪問、実際

休めたのは1/2のみ。正職1名

のため、正職1名

の確保に努めた。

〔シャローム〕1/23ケアプランデー

連携システム研修。2/6榛原総

合病院医師による心不全につい

ての研修。2/13坂部サロンに参

加。2/19牧之原市集団指導。2/

20相良地区民生委員との交流会。

〔オリーフ〕1/27「研修」利用者

も職員も幸せになる施設づくり

というテーマに魅せられて、職員7

名が参加(500名)。幸せになる要

素は「役に立つこと」「必要とさ

れること」「ほめられること」「愛

される(大事にされる)こと」。そ

れは利用者も職員も同じである

こと。そのお話でした。「そなたよ

う」は「はりそうだよな」と改め

て納得した研修でした。2/25地

域包括支援センター部会開催。部

会の委員は医師代表、介護保

険事業者代表、社会福祉協議会

代表、民生児童委員協議会代表、

薬剤師会代表、オリーフの2年目

たたく。1/13手作り昼食、おで

んを作りアツアツを美味しくいた

だ。1/15ひまわり号へ本好き

な方と借りに行く。1/22/24あ

んまき作り。2/23節分豆まき大

会。2/4幸切干し作りごっすり

つまみ食いも。2/12すすずらん

と合同の防災研修で送迎の情報

収集を行う。2/1416坂口谷川